



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

遺伝子組み換えによるエイズ痴呆発症機構の解明ならびに治療薬の評価

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齊藤, 邦明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/636

はしがき

本研究は、エイズ痴呆 (ADC) に類似した症状を呈することで知られるレトロウイルス感染モデル (immunosuppressive murine leukemia virus, LP-BM5, 感染末期にマウスに ADC 様の症状を呈する) を用いて ADC 治療薬を評価し、さらに ADC 発症に関与していることが示唆されるトリプトファンの分解酵素であるインドールアミン酸素添加酵素(IDO)の生体内、特に脳内での生理的役割の解明を主たる目的とする。すなわち、ADC 治療薬としての TNF- α 阻害剤および種々サイトカイン遺伝子組み換えマウスを用い、Y-maze test, Water finding test, Watermaze test をはじめとした行動薬理学的評価と IDO との関係について検討する。また、ADC 治療薬投与群および骨髄移植によるサイトカイン遺伝子組み換えキメラマウスの両方で、経時的な病態の変化、ウイルス価、サイトカイン濃度、種々生理活性物質などの動態を調べ、ADC 発症との関与を明らかにする。